

宮崎兄弟資料館だより

2016/09/30

平成28年4月に発生した熊本地震について



平成28年4月に発生した「熊本地震」（14日午後9時26分の前震、16日午前1時25分の本震）により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。
荒尾市では、4月14日は震度4、16日は震度5弱を観測し、宮崎兄弟資料館でも、資料館を支える梁に亀裂が入るという被害を受け、約1か月間、臨時休館させていただきました。

亀裂が入った資料館の梁（4月15日撮影）

構造上の安全が懸念されたための措置でしたが、遠方からお越しいただいた方や資料館の見学を団体予約いただいていた方々など、多くの方に御心配と御迷惑をおかけしました。臨時休館に気を落とされる来館者もいらっしゃり、大変心苦しい気持ちでしたが、一方で、多くの方が宮崎兄弟の生家施設を思っていてくださることが分かり、とてもありがたく感じました。

また、幸いなことに資料館内の設備や展示史料には被害がなかったため、梁の補強補修を行い、6月10日から再び開館することができました。地震前より来館者数が激減するという苦しさも、現在は徐々に緩和し、団体予約の数も少しずつ増えてきました。これから行楽シーズンに入りますので、一日も早く宮崎兄弟の生家施設に活気が戻るよう、職員一同取り組んでまいりたいと思います。

何振良中国駐福岡総領事が来館されました

7月30日、今年7月に着任された何振良中国駐福岡総領事をはじめ、張副総領事、他18名の方が宮崎兄弟の生家施設に来館されました。当日は、夏休み少年少女俳句教室があっており、何総領事は子どもたちの俳句づくりの様子を御覧になりながら、どのような俳句をつくったのかなど、

子どもたちと会話をされました。子どもたちが「你好（ニイハオ）！」と挨拶をすると、総領事館の皆様はとても喜んでくださいました。



▲何総領事を中心に資料館前にて記念撮影

▲俳句教室の子どもたちと会話される何総領事

☆子どもにも分かりやすい資料館をめざして☆

現在、荒尾市教育委員会では、地元子どもたちに宮崎兄弟を郷土の偉人として知ってもらい、彼らの活動の意義について学んでもらえるような環境づくりに取り組んでいます。

平成27年度には資料館内に宮崎兄弟に関する子ども向けのパネルを設置し、現在は「荒尾市ふるさと応援寄附金」を活用し、子どもたちが宮崎兄弟について勉強する際の手引きとなるような、子ども向けのリーフレット作成に取り組んでいます。

また、平成27年度に荒尾市教育委員会で作成した郷土学習テキスト『荒尾の宝もん』の内容の一つとして宮崎兄弟を取り上げており、今後、総合的な学習の時間を通じて学んでもらう機会が増えることが期待されます。

万田坑や荒尾干潟と並ぶ地域資源として、次代を担う子どもたちに宮崎兄弟について知ってもらえるよう、資料館見学の充実に取り組んでまいります。



八郎

民蔵

彌蔵

滔天

▲子ども向けキャラクター「宮崎兄弟」

☆荒尾市宮崎兄弟顕彰基金を設置しました☆

このたび荒尾市では、「荒尾市宮崎兄弟顕彰基金」を設置しました。

これまで、「宮崎兄弟発信のために、生家施設の運営に役立ててほしい」、「日中友好のために役立ててほしい」といったお気持ちから、寄附金をいただくことがあり、生家の畳替えや牡丹園の整備など、生家の維持管理を行ってきました。なかには、毎年寄附をくださる方もあり、そうした方々のお気持ちにきちんと応えることができる活用を行えるようにと思い、「荒尾市宮崎兄弟顕彰基金」を設置することとなりました。

宮崎兄弟の生家施設は開館から23年が過ぎ、施設の各所で補修が必要な状況が多発してきています。また、宮崎兄弟関連事業は、国際的な文化交流をはじめ、拡大の一途にあり、これからますます宮崎兄弟の生家施設の重要性が増してくると考えられます。これからも宮崎兄弟の生家施設を維持管理し、宮崎兄弟の功労を顕彰するとともに、次代に継承していくため、顕彰基金に御協力をお願いいたします。



宮崎兄弟研究事業

—経過報告⑤—

荒尾市教育委員会では、平成26年度～平成28年度の3カ年にわたって、宮崎兄弟に関する研究の一層の促進を目的とする「宮崎兄弟研究事業」に取り組んでいます。

今年度はいよいよ研究事業の最終年ということで、現在、報告書作成に向けて論文を執筆しています。内容としては、19世紀末から20世紀の時代のなかで、「宮崎兄弟」はどのように考え、活動したのか、その歴史的再評価を世界史的な枠組みから試みるものとなります。「宮崎兄弟」、特に宮崎滔天と孫文の友情の歴史は、国内のみならず、中国やシンガポールと荒尾市をつなぐきっかけとなっています。その歴史的価値を多くの方に伝えられるような報告書にできるよう、執筆活動に取り組んでまいります。

生家だより

No. 5

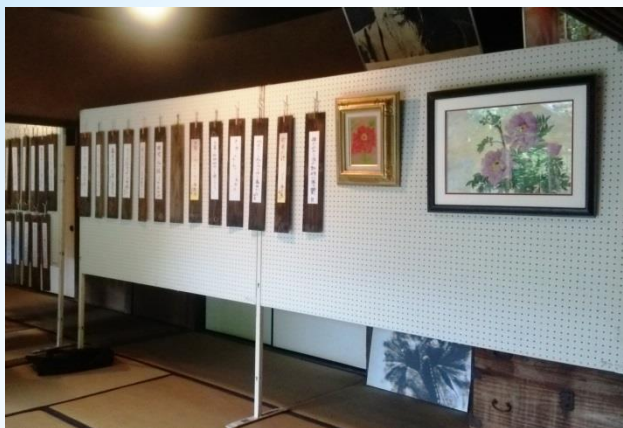
・4/10 第22回 牡丹茶会

今年もピンクや赤の牡丹が咲き誇るなか、宮崎兄弟の生家にて牡丹茶会が開催されました。当日は暑く感じられるほどの快晴で、春らしいお菓子とお抹茶をいただきながら、参加者は牡丹を楽しまれていました。



・ 5/10～6/5 第3回 牡丹文芸・美術展

今年で3回目となる牡丹文芸・美術展も年々出品数が増えてきており、宮崎兄弟の生家施設のイベントとして定着してまいりました。今年は新たに押花の作品も出品され、大きな牡丹の押花に、来館者からは感嘆の声が聞かれました。



・ 7/28～30、8/3・8/5・8/8

第39回 夏休み少年少女俳句教室

蝉の声をはじめ、青々とした葉をたたえる庭木など、宮崎兄弟の生家には季節を感じることができる環境があります。この自然と歴史にあふれるなか、今年も子どもたちから多くの俳句が生みだされました。何総領事が来訪された30日には、子どもたちも日頃は接することのない中国の方々に初めは緊張していましたが、最後には握手を交わすなど、国際交流の場ともなりました。



・ 8/5 第3回 夏休み子ども教室

今年も宮崎兄弟資料館にて夏休み子ども教室を開催しました。昨年作成された荒尾市プロモーション映像の映写にはじまり、紙芝居「宮崎兄弟



ものがたり」で宮崎兄弟について学んだあと、実際の史料を見てもらう資料館見学ツアーを行いました。

・ 9/24 第11回 音と光の祭典

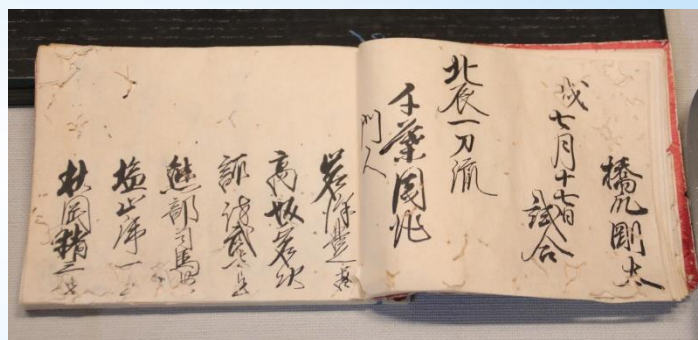
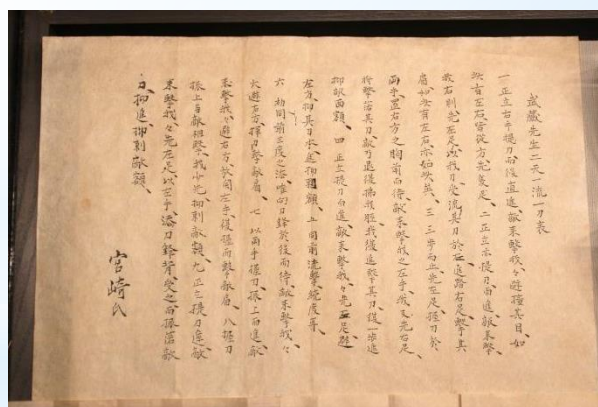
荒尾第一小学校の6年生たちによるガイドが行われたり、ステージではVientoが出演されてオカリナの音色が秋夜の生家に響きわたるなど、今年も大変にぎわいました。



資料紹介 ④

武蔵先生二天一流一刀表
宮崎兄弟の父・長蔵の武芸帳

宮本武蔵の二天一流の刀法を写したもの。宮崎兄弟の父・長蔵は武芸に優れていたといわれ、二天一流の山東半兵衛門下の剣士でした。1850年に武者修行のため諸国をめぐるのですが、その武芸帳には、かの千葉周作や齊藤弥九朗の名も見られ、長蔵の武芸の腕が伺えます。



企画展の御案内

平成28年は孫文生誕150周年の記念の年です。今回は、孫文関連施設である「長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム」と連携し、1913年の孫文来日の折に「荒尾」・「長崎」それぞれを訪れたときのようすを中心とした展示を行う予定です。革命に成功し国賓として来日した孫文は各地で、どこを訪れ、何を見、何を語ったのか。

荒尾の企画展を訪れたあとは、長崎の「長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム」を是非訪ねてみてください！

孫文生誕150周年記念企画展 「孫文と荒尾」

会期：平成28年11月1日（火）
～12月25日（日）
開館時間：9：30～17：00
（入館は16：30まで）
休館日：月曜日
（休日の場合はその翌日）
観覧料：一般（高校生以上）210円
小・中学生 100円

孫文生誕150周年記念企画展

孫文と荒尾

当時の史料から描き出される
荒尾での孫文の姿



十七年報りに予は荒尾村に來り、尚記憶に存せし風物に懐き感喜に堪えず
『九州日日新聞』天正二年三月二十日付

平成28年
11/1 火 12/25 日

荒尾市宮崎兄弟資料館2階

開館時間 9:30～17:00 ～入館は16:30まで
休館日 月曜日(休日の場合翌日)
観覧料 一般(高校生以上)210円
小・中学生100円
主催 荒尾市教育委員会



【問】荒尾市宮崎兄弟の生家施設

〒864-0041 荒尾市荒尾949-1 電話0968-63-2595

＜今後の予定（10月1日～）＞

- ・JR九州歴史探訪ウォーキング大会（11月3日）
- ・滔天忌俳句大会（12月4日）
- ・文化財防火デー「防火訓練」（1月下旬）
- ・春の華展（3月25日～26日）

※詳細については荒尾市教育委員会（☎0968-63-1681）までお問合せください。

※皆様の御来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております！

～編集後記～

資料館だよりの一面にも記しました通り、今年度はまさかのスタートを切ることとなりました。地震直後、熊本市内の被害や混乱が伝えられるなか、「宮崎兄弟資料館はだいじょうぶだろうか。史料は？生家は...？」という思いが一気に湧き起こり、気が気ではありませんでした。翌日資料館を見に行くと、最初は展示室内も特に異変はなく、物が落ちたりもしていなかったのですが、「意外と被害はなかったかな」と安堵した直後、梁の亀裂が目に入り、言葉が何も出てきませんでした。建築関係の業者の方々も多忙を極めており、現状確認に来ていただくまでの間はただただショックで、臨時休館にせざるをえないという状況だけはすぐに分かりましたが、いつ再開できるかの見当がつきませんでした。

しかし、現状確認の結果、補強補修を行えば構造上の問題はないことが分かりすぐにその対応が行われたこと、そしてその間に宮崎家の方をはじめ（以下、敬称略）、神戸の孫文記念館、愛知県の愛知大学東亜同文書院大学記念センター、長崎県といった国内の孫文関連施設・機関、さらにシンガポール晚晴園や台湾の国立国父紀念館、中山學術文化基金会からお見舞いの言葉をいただきました。そのお言葉やお気持ちに接するたびにとても励まされ、かつ、こうしてお見舞いの言葉をいただけるのは宮崎滔天が孫文と深く親交していたからなのだと、改めてその功績の大きさを感じました。この場をお借りして、関係者の皆様にお礼を申し上げます。来年は孫文と滔天が会ってから120年の記念の年でもありますので、今後も職員一同、宮崎兄弟顕彰のため取り組んでまいりたいと思います。

～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」6号は、2017（平成29）年3月に発行予定です。

内容は、

- (1) 宮崎兄弟研究事業 結果報告
- (2) 生家だよりの No.6
- (3) 資料紹介⑤
- (4) 施設紹介②

を予定しております。その他、掲載内容について何かご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail: mai.33413@city.arao.lg.jp

（担当：野田【荒尾市教育委員会】）